

諦め そっ ない たく 心

令和6年3月1日刊行 No.22
編集・発行 大島町教育委員会
教育文化課事務局
TEL04992-2-1453
題字「井島 吉春」



諦めない心



教育長 谷口 淨

世の中で成功している人の多くは諦めない人といわれています。何かを成し遂げるには、強い心が必要となります。しかし、強い心を持ち続けることは大変なことであり、うまくいかないときや壁にあたったときは、そこから逃げたい、避けたいと思うことも普通にあることだと思います。

「強い心」とは、困難な問題や課題にぶつかった時、決して逃げようとせずに立ち向かい、何とか成し遂げようとする気持ちのことです。常に諦めない心を持つ人は、多くの場合、強い人や頑張り屋として評価されているのではないのでしょうか。

現在、小中高の学校では「キャリア・パスポート」というものを作成しています。児童・生徒が社会的、職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしく生きる力を育むキャリア教育活動の一環として行われているのがキャリア・パスポートです。小学校の卒業式や中学校の入学式等で将来の夢を発表する姿もよく見ることがあります。「私は将来警察官に成りたい」「私は大人になったら学校の先生に成りたい」「You Tuber（ユーチューバー）に成りたい」等。実際に子どもの頃の夢を叶えた人もいれば途中修正して新たな夢に挑戦する人もいます。

夢を叶えたいと思った時、大切なことは、その夢に向かって行動することです。物事の成功を得るためには、失敗から学ぶことを活かすことも必要です。挑戦しないことは、失敗という経験もすることはできません。経験というプラス思考で物事を見ることができれば失敗を怖がらないマインド（心・精神）ができます。

野球のイチロー選手も「夢ノート」を作っていました。イチロー選手の凄いところは、小学校6年生の時に作文で以下のように公言しているところです。・ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になること、・球団は中日ドラゴンズか西部ライオンズで契約金は一億円が目標、・一流のプロ野球選手になるために、中学、高校の全国大会で活躍しなければならない、それには練習が必要で、練習には自信がある。と具体的に言い切っています。自分の夢を公言した結果イチロー選手は野球選手として大成功しています。実際イチロー選手は、日米通算4,000本安打達成という偉業を成し遂げていますが「4,000本安打達成できたその裏には、その倍にあたる8,000本の失敗があるとも言っています。（一部インターネット参考）

私の親戚のお爺さんで、いつもニコニコしていて笑顔のとても素敵な「徳じい」という方がいました。徳じいは毎年カメラマラソン大会に出場していて、ある大会の時質問してみました。「徳じいエー、今年も走んだな！」「歳はいくつになったんだっけ」「随分頑張んなあ」「何でこんな歳になっても走ってんの！」の問いに、徳じいはニコニコしながら「俺はな、子どものころ足が遅かった」「そこで学校の先生に、どーすれば速く走ることができるのかを聞いてみた」。学校の先生はこのように答えたという。「あなたは、一生走れ、走っていれば一番になる！」とのことだった。気の長い話ではあるが、足が速い人も歳をとれば衰えてくる。ずっと走っている人は衰えない、だから一番になる。という教えなのだろう。その言葉を信じて続けてきたのだった。私が気が付いた時には、もう既に腰も曲がりかけてはいたが、それでも頑張っ走り続けていた。心配した娘さん達も還暦を過ぎていたが東京から孫を連れてきて共に走った。なんとも微笑ましい、うらやましい話であり、なかなか真似ができることではない。徳じいの夢も叶い、娘さんや孫の心の財産にもなった。カメラマラソン大会も「男子はこれっからだ」と言い88歳になるまで走っ

た。後に徳じいの息子さんから聞いた話では、いつまで続くかわからない走りに嫁さんから「お父さん！止めるのにも勇気が必要だよ！」と言われ止めることにしたという。徳じいは、97歳で天命を全うしましたが、同級生の皆さんには長寿になっても走り続けられたことを自慢しているかも知れない。



学びを行動できる力に

教育委員長職務代理 山田 三正

今年1月1日令和6年能登半島地震があり災害で多くの犠牲者と家屋の倒壊がありました。翌日には羽田空港での日航機と海上保安庁機の事故がありました。羽田空港での事故ではありますが、海上保安庁機は地震災害地への物資輸送任務のためのフライトでした。年頭から災害の犠牲者の方を思い、被災地の復旧・復興を願う新年の始まりでした。

7日大島町消防団の出初式がありました。本部と各地区団員が整然と凛々しく行進する姿を見せられました。日頃の装備点検・準備や、実際の消火活動などを思い、感謝と期待を込めて応援しました。

40年前の伊豆大島噴火・避難の際には約500名の団員数でしたが現在は249名だそうです。半分になった団員の皆さんで今の大島を守ってしてくれます。

改めて思います。10年前の土砂災害の時も自らも被災者・避難者でありながら懸命な活動を行ってくれました。行政・関係機関・ボランティアそして町民。様々な場で多くの方々の活動がありました。避難所内での生活の場でも、それぞれの人が進みました。特に高校生が食事などの準備・配布などできることをする場面、中学生が小さい子を世話する場面を思い出しました。素晴らしい力を身に付けてくれていると当時感謝し誇らしく思いました。

現在災害・防災教育が様々な場で行われています。災害に対しての防災、災害を減災する取り組みそして事が起こったあとの対応についての発災後の対応など、日常でない場についての事柄です。公助・共助・自助です。過去を知り、そこから今を観て、将来を予測・創造することが大切です。知識・行動・準備。防災・減災や避難訓練の大切さを学んでいると思います。今後、災害が起きた時そしてその後の避難所生活などで、中高生の力の存在が必要不可欠と考えます。させられるではなくできることをする人に育ててほしいと願います。

防災教育研究指定校となった大島高校では大島高校防災活動支援隊を中心にまさに生きる力を育て、自ら活動できることを学んで活動しています。小中学生も自分の命を守り、周りの人も守れる人に、学んだことを考え、自分でできることをする意識と力を養ってほしいと思います。学ぶ場所や資料が学校だけでなく色々な場所に用意されています。

大島の防災力として期待する以上に、自分の生きる力として、今持っている力をより強く広く、『できる する』までを目標に災害に備えて欲しいと思います。



「それぞれの役割」

委員 井島 吉春

歳を取ると、もの忘れが多くなり、あれはどこに置いたかなと、うろうろしていると、大抵いつも置いてある所にはなく、不用意に置いてしまったところから後日発見される。

日常生活の中で定位置は重要で、自分のものだけなら、どこに置いて困ろうとも自分の責任だが、自分以外の家族や他人が使うもの、公共のものなどは必ず定位置に置くべきである。

「高処は高平、低処は低平」（こうしょはこうへい、ていしょはていへい）これは禅語で知っている人もいるかも知れないが「典座教訓」という書物に出てくる語である。高いところに置くべきものは高いところに置き、低いところに置くべきものは低いところに置いてこそ、それぞれ平等であるという意味で、あたり前といえはあたり前だが、もっと奥深い意味がある。

人は自分の立場や生活環境など千差万別で、基本的に平等だが人格はすべて違い苦楽の感じ方も違う。そして様々な職業、役職、役割等あり、そこに上下の差別はなく皆尊い仕事なのだ。自分の置かれた立場に不平不満があるのは自分で差別をつけて比較してしまうからである。

私は、年に6, 7回隣の利島へ行くが毎回就航率の高いヘリコプターで行く。乗っている時間は、10分程度で着くので船と比べると時間が有効に使えてとても便利である。

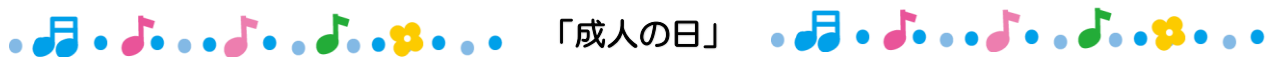
先日利用した時ふと、感じたことがあった。この10分間のためにかかりの人達が関わってくれているのだなと。

まず、予約をとるのが電話で対応してくれた人、チケットを窓口で販売してくれた人、搭乗前の手続き、ボディチェック、荷物運び、ヘリコプターまで誘導、操縦士、乗務員など、実に多くの人達が私の為に関わっていて、この10分間のヘリ飛行を支えてくれているのだ。

各人にとっては、それぞれの役割をしっかりと果たしただけのことだが、世の中全て色々な人たちが知らない所で繋がっていて、知らない所でいつの間にか助けてもらっている。かかわっている人たちは、その仕事に就くために努力研鑽し、プライドをもって取り組むプロなのである。

人は生まれてから、様々な教育を受け、やがて社会に出る。そして自分の仕事を持ち、働く。もちろん自分が生きていくために働くのだが、実は他人の為にも働いているのだ。他人の為に働いているというより、役に立っていると言ったほうがいいかもしれない。いい加減な仕事はできない。どんな仕事に就こうとも、その仕事に誇りを持つことが必要だ。

島の子どもたちは将来社会人となったとき、自分はその仕事のプロで多くの人達の役に立っているのだと言う自信と誇りを持ち、各方面で活躍してもらいたい。私たちは、たすけ、たすけられ、共存共栄で生きている。高処は高平、低処は低平。



「成人の日」

委員 山本 忠夫

今年、暦の上では1月8日が成人の日。今は18歳が成人という扱いのため、大島町では「20歳を祝う会」として1月6日に開催され、出席させて頂きました。私が若い時は20歳が成人だったので、やはり20歳という年齢は特別な響きがあります。大島の20歳の皆さん、とても生き生きとして本当に輝いていました。

やっぱり思い出します。私が20歳の頃。その当時はまだ大学生ということもあり、将来のことはあまり深く考えていませんでした。どこかの会社に就職し、定年まで働き…。傍から見たらきっと輝いてなんて見えなかったでしょう。でも、大学を卒業し社会の荒波に揉まれるようになって、ようやくやりたいことが分かりました。それから40年を過ぎて思い返す（仕事を3回変えてしまいました）と、いろいろな経験を通して学ぶことがほとんどだったなあ、と思います。

高い目標にチャレンジすればするほど嫌なことも苦しいこともある。本に書いてあることをそのままやってもまずうまくいかない。自分で考え行動し失敗を繰り返し、失望し、また立ち直る、そうやって「生きる」ことを何となく理解していく…20才過ぎに思い描いた夢の通りではなかったけど、やりたかったことはできた。そしてこれまで大病もなく過ごせたことには心から感謝しています。

先日、ある本でこんな詩を見つけました。

『これだけのことを学び、これだけの修行をした、と主張しなくても。本当の智慧はあなたの息づかいに、あなたの微笑みに、あなたのたたずまいに現れる』

知恵じゃなくて、智慧？…さっそくネットで調べてみました。

ざっくりとですが…。智慧はもともと仏教用語。智慧とは「気づき」。知識は勉強などによって得ることはできるが、智慧は学校の授業などで得られるものではなく、スポーツのように体感（経験・体験）をもって何かが分かる、ということ。智慧というのは人生の出来事の中から「真実とは…、幸せとは…」という

物事の本質に気づき見極めようとするもの。智慧は慈悲とともに両方身に着けることで人間的な高みを目指す、とありました。なるほど。詩のような生き方を身に着けることはすごく難しいかもしれないけど、大人になるということは、長い時間をかけ経験の中での気づきから、真実を見極める人間力をつけるものなのですね。それが「たたずまいに現れる…」なんてすごい。

この歳になっても自分には煩惱もありまだまだ悟りにはほど遠いです。それでも20歳になった若者たちと一緒に善き人生を歩もう、若者を応援しよう、と心を新たにできた成人の日でした。



「自立って何だろう？」



委員 秋田 幸重

令和5年10月に教育委員として着任し、私の中で大きな変化のある年となりました。

簡単な自己紹介となってしまいますが、私には息子がおり、長男は社会人、次男は高校生、三男は中学生で年が大分離れています。私が相談事をすると社会人、高校生、中学生の考えがあり、もちろん長男が一番的を射ていることが多いのですが、下の二人は親身になって考えてくれます。よく息子たちには自立をなささいというけれど自立って何だろうと深く考えたことはありませんでした。

自分の子育てのエピソードをふと振り返ると社会人になって2年目の長男は、大島に帰ってきて一人暮らしをし、ご飯も自分で支度をして生活しています。小さい頃は「家事を手伝いなさい。」「アルバイトをして自立をなささい」と口酸っぱく言っていました。が、中学、高校、大学に進むにつれ、彼なりに自身の進路や将来設計を考え、私の知らないうちに就職先も決めてしまっていて、改めて「自立したな」と感じさせてくれます。

自立って何だろう。それは、親が強制するのではなく、子供自身が考え、自ら飛び立っていくことなのではないかと思えます。

次男、三男には口酸っぱく言うのではなく自分たちで考え、進んで家事を手伝ってほしいなどこの原稿を書いている途中に気づかされました（笑）。



【大島町教育相談室のご案内】



大島町教育相談室は、教育相談員・指導員・社会福祉総合相談担当の5名体制で、子ども達や保護者、教職員のための相談対応、支援を行っています。

教育相談事業

不登校・いじめ・発達の遅れ・学業不振・非行など、子ども（小・中学生）のあらゆる教育相談について、本人や保護者及び学校関係者のご相談をお受けします。

適応指導教室「パレット」

さまざまな理由で学校に行きにくかったり、教室に入れなくなったり、登校できないでいる小・中学生のための居場所です。一人一人に応じた体験活動や学習活動を行い、学校復帰や進路の実現に向けて支援をしていきます。

☆ 困ったり、悩んでしまった時は、迷わず（2-4544へ）直通電話へ連絡ください

【連絡先】大島町元町字丸塚 548 番 1 大島町生涯学習センター・郷内（2階）

電話：2-4544 メールアドレス：kyouikusoudan@citrus.ocn.ne.jp

※なお、来室される方は、教育相談員が学校訪問するなど不在の場合がありますので、事前にお電話にて確認のうえお出掛け下さい。